

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700182		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	しきぶの里		
所在地	佐賀県嬉野市塩田町大字谷所甲2385-1		
自己評価作成日	平成29年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=true
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年1月19日	外部評価確定日	平成29年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然に囲まれた穏やかな環境。バス停も近くにあり交通の便も良い。開放的で日当たりのよい食堂兼居間にみんなで集い、一人ひとりがゆっくりと思いつきに過ごして頂ける環境。入居者様が健康的で一日一回でも大きな声で笑え、リラックスできる家庭的雰囲気づくりに努めています。職員が、笑顔でストレスを溜めずに楽しめる職場づくりを心掛ける事が、入居者様の笑顔につながると考え実践しています。</p> <p>施設の基本方針である「個々の入居者様の自己選択」「自己決定」を促し、能力に応じた自立支援に力を入れています。又、地域住民の皆様との交流を図りながら、開放的なグループホーム運営に努めています。</p> <p>施設の理念である『みんな笑顔でハッピーに』を実践する為職員一同努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームしきぶの里は山や田畑に囲まれた自然豊かでのどかな地域に立地するホームである。開設して11年になるが、当初よりボランティアや近隣の住民が立ち寄りなど地域に支えられてきた。現在も地域密着型として地域の中にとけこんだ運営が行われていることは評価したい点である。ホームの理念は「みんな笑顔でハッピーに」と掲げ、利用者職員がともに笑顔で暮らせるホームを目指しており、広々としたリビングでの楽しいおしゃべりは、時間が経つのを忘れてしまうほどの利用者の明るい笑顔がみられる。近隣市町村のグループホームと協議会を開催し、互いに情報提供したり、研修会を開催するなど、サービス向上を目指し頑張っているホームである。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフだけでなく入居者様や来所されるご家族様や地域の方々にも見える位置に掲示しており、常に理念を意識してケアを実践するよう心掛けている。	ホームの理念は、「みんな笑顔でハッピーに」と掲げている。職員が笑顔で接することにより、利用者の笑顔に繋がることを意識して日頃のケアをしている。また、利用者毎に職員を担当制としており、各職員のケアへの思いを「年度目標」にして居室に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より地域自治会に入っており、区費を納め、回覧板や行政の配布物等により日常的に地域と繋がりを持ちながら、地域の中で生活している。その他、スタッフが地域コミュニティー委員としての役割を担い地域活動に参加している。	地域コミュニティ委員として、毎月の定例会に参加し、地域行事等の情報を得、活動に参加している。地域一斉の美化活動では利用者と職員が缶ひろい等に参加し交流に努めている。その他、かかりつけ病院受診時や散歩等で日常的に近所づきあいの機会があることを利用者は楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回開催している運営推進会議に地域住民代表の方々が参加されており、会議の場において色々な取り組みについて報告、伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。会議では2か月間の行事報告、事故報告、入居者様の現状報告等を行い、施設の現状を知って頂き、多方面からのご意見を頂きながらサービスの向上に努めている。また、欠席された委員の方に対しては、後日資料、会議録を送付している。	定期的に運営推進会議を開催し、ホームの状況報告はもとより、委員からは質問や意見が出され、運営に活かされている。専門職からは、ケアのアドバイスをいただいたり、市のオムツ支給を受けることに繋がった。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市の担当者にも加わって頂いている。時に行政の福祉事業について尋ね適切なアドバイスを頂いている。又、定期的で開催されている地域ケア会議にも出来る限り出席するよう努めている。	市で実施する地域ケア会議に出席し、空き情報を伝えたり、テーマを決めて事例検討を行う等、情報交換の機会となっている。広域介護保険事業所とは、手続き関係や法改正等の相談をし、アドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓は原則夜間のみ施錠し対応しており、日中は自由に活動して頂けるよう配慮している。又、毎月の職員会議においても身体拘束について話し、職員の理解を深めている他、研修も行い常に身体拘束をしないケアの実践を心掛けている。	身体拘束廃止マニュアルに基づいて拘束をしないケアを実施している。職員会議では常に日頃のケアを振り返る機会を持ち、特に言葉による拘束を廃止するよう申し合わせをしている。職員が気づいたときに互いに注意し合える関係を目指している。毎月近隣の市町のグループホームと協議会を開催し、身体拘束廃止についての研修会を行う等身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待行為はないが、言葉により相手を傷つける事が無いが職員間で注意を払い防止に努めるとともに、研修会に参加したり、学習会を開いたり、毎月の職員会議においてみんなで話し合い防止に努めている。又玄関ホールには、虐待防止の指針を掲示し、常にスタッフが意識する環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回以上は権利擁護についての学習会を行い全スタッフでの理解を深める努力をしている。又、入居者様の生活自立支援を行ううえで、各個人の能力に応じ残存機能を引き出し、少しでも自立できるよう支援する事に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時より契約書、重要事項説明書に基づき説明し、納得を頂いて上で同意、署名を頂いている。又、不安な点や疑問点に関しては、再度説明し理解を得ている。改定の際にも文書にて説明を行うとともに、個別に説明対応を行う事で理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している他、面会時等にご要望やご意見について声かけするよう努めている。又、毎年アンケートも実施している。ご家族より出された要望については、職員会議にて検討するとともに、運営推進会議にて報告し、意見を伺い今後の運営に活用している。	外部評価の受審がない年にも独自に家族へのアンケートをとり、意向や要望の把握に努めている。日頃の面会に気軽に来てもらえる関係を構築し、利用者の近況を伝え、意向を尋ねている。毎年敬老会には家族へも案内しており、利用者と食事をしながら、意見を聞く機会と考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を代表者をはじめ職員全員の出席のもと開催している。職員からの意見。要望等に関しても会議には代表者も出席している為、直ぐに回答を頂き、早期の解決が図られている。	管理者の話しやすい雰囲気もあり、職員間は自由に意見が言える関係ができていのがうかがえる。日頃から業務やケアに関する内容については話し合いができており、申し送りノートを利用して情報の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給、研修会参加の助成、超過勤務手当の支給等がなされている他、スタッフの配置に応じ無理の無い程度に有給休暇を取得したり、夏季休暇や年末年始休暇の取得もできるようになっている。又、管理者や職員からの要望事項を聞き職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、職員のキャリアに見合った研修会参加を薦めている。研修会参加の諸経費の負担や参加しやすい条件整備に努めている。施設内研修は、月に1回担当者を決め実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	塩田・鹿島・太良地区グループホーム交流会が毎月開催され、参加しており、他施設の情報や取り組みについて意見交換をする場となっている。参加した研修会の内容については、参加者が職員会議で報告し、情報を共有しながらサービス向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や本人との面談を行い、本人が困っている事や不安なこと、要望等を伺い安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面談を行い、ご家族の疑問、不安、要望等に耳を傾けながら、施設として出来る事出来ない事を理解して頂けるよう努めている。入居後は、面会時や電話連絡、家族だよりにてご本人の生活状況等の情報を提供し家族との関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各医療機関や外部サービスとの連携を図りながら必要な支援を見極め、必要な方には訪問歯科診療や病院リハビリ等にて対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の集いを毎日開き入居者様の意向に沿った一日の過ごし方をお手伝いできるよう努めている。これまでの生活歴(職歴)を踏まえ、入居者各自がやりたい事、出来る事を実践して頂けるよう努めている。料理、裁縫、園芸等職員が教えてもらいながら一緒に行う事も多い。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加の依頼、自宅への外出・外泊支援の協力、日常的面会を通してご家族間の絆を再確認して頂きながら施設での生活状況を伝え、協力を依頼する事で一人の入居者をみんな(家族、事業所、医療機関等)で支えているという意識を持っていただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ドライブの際各入居者の馴染みの場所に出かけるよう努めている。又、個々の希望により行きつけの美容室へ言ったり、自宅訪問の支援を行っている。	ふるさと巡りを計画し、自宅周辺をドライブしたり、自宅訪問が可能な方は、仏壇にお参りするなど本人の希望を実現するよう努めている。毎日朝の集いでは利用者の希望を聞いており、外出先がお寺参りや美容院等の場合も同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士がお互い自然と寄り添い談笑されている。職員は、入居者の相互関係を十分に把握し、声かけ・介入する事でひとりが孤立することの無いよう心掛けている。時には食事テーブルの席を変更し、より良い対人関係が築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養を必要として退所されて方に対して、随時面会に出かける事で関係を断ち切らない取組みを心掛けている。面会時や街中でご家族に出会った際にも声かけをさせて頂き、近況を伺ったり、相談に乗る等ご家族の思いを汲みとりながらの支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎朝開いている朝の集いで「食べたいもの」「行きたい所」等希望を尋ね記録している。その日に出来る事は即日実行し、無理な場合は後日計画し実行している。	朝の集いを実施し、利用者の希望や意向をたずねているが、改めて聞くと答えられないことも多く、日常の会話の中で、一緒にお茶を飲みながら把握した情報を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活習慣、得意分野の活動等情報収集し、職員が情報共有出来るようフェースシートとして残している。又、入居後明らかになった情報についてもその都度フェースシートに記載し残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事活動(掃除・料理・洗濯物たたみ等)や下肢筋力低下予防のための歩行訓練や下肢の筋力アップ運動等各人の状況に合わせて実施している。心身の状況把握は、受診記録簿や援助記録にて共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞くとともに、主治医やリハビリ担当者、訪問歯科医等必要な関係者から意見を聞き、計画担当者を中心に職員で検討し現状に即して計画立案に努めている。モニタリングは定期的に行い、次のケアプランに活かせるようにしている。	介護計画作成時には家族の面会時や、電話で意見を聴くなどして、事前に相談している。利用者の視点で、思いや意向が反映された計画を作成するよう努めている。モニタリングも定期的に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は施設サービス計画の長期目標、短期目標に沿って記録している。日々の記録は、サービス計画の見直しの材料として活用している他、必要な事項は、計画担当者に申し出るとともに職員会議の場で話し合いを行いケアの統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科診療・通院リハビリ等入居者のニーズに合わせ対応している。事業所での生活をマンネリ化させない為にも、外出レクやボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ ・アコーディオン(毎月)・・・演奏に合わせ歌や体操、その他入居者の得意とする歌や特技を披露して頂き、本人の力を発揮する機会を設けている。 ・大正琴・詩舞・踊り等・・・年に数回ボランティアの方が来所されみんなで楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望で決めている。家族が受診付添いできない場合は職員が付添い介助している。 病院リハビリを活用されている方が1名おられ、その介助支援も職員で行っている。	本人や家族が希望される医療機関で受診されている。眼科や歯科等の必要な診療科目も含め、家族の付き添いは困難な場合が多く、職員が支援している。受診時は情報の提供を行い、受診結果もその都度家族へ報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の入居者との関わりの中で、異常等の早期発見を心掛け、随時看護職員に報告・相談を行い適切に対処している。その結果、主治医への報告・連絡・相談もスムーズにできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族同伴にて主治医面談を依頼し、治療期間や治療方針の説明を受け今後の施設利用について検討している。 入院先の病院とは、管理者または計画担当者が、地域連携室と情報交換をしながら早期の退院に向けて連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の施設方針や手順については準備している。現在、施設で対応出来る事出来ない事をご家族に説明し、契約を交わす段階から終末期ケアについても意向を聴取している。又、ご家族の気持ちも時間の経過と共に変化される為、面会の際や状態の変化のあった際に随時意向を確認し、新たに要望が出てきていないかモニタリングしている。	重度化や終末期に向けた指針を作成し、入居時に説明し、同意を得ている。現在は看取りを実施していないが、利用者や家族の意向をくみ取りながら、ホームのできることを段階に応じて説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内、施設外研修会にて急変・救急時の対応について知識を深めている。救急時のマニュアルも作成し有効活用しながら全スタッフがいつでも対応できるよう技術の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上日中・夜間各想定にて通報・消火・避難訓練を実施している。今年度は、まだ実施出来ていないが、地域消防団との訓練も検討している。 昨年12月には、水害等の災害を想定しての避難準備や避難手順の確認を実施した。	定期的に消防署の指導を受け災害避難訓練を実施している。運営推進会議でも訓練における協力依頼をしている。災害時には職員だけの対応は困難と理解しており、近隣の住民の協力を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である『みんな笑顔でハッピーに』を念頭に置いた言葉かけや対応を心掛けている。又、職員間で互いに気づいた時には注意し合い、職員会議の場でも話し合いを行い適切な対応を心掛けている。	ホーム会議で不適切な言動についての振り返りを行い、職員間でお互いに注意し合える関係を作っている。接遇やマナー等の外部研修に参加し、意識づけをしている。認知症介護研修で「その人らしさを尊重する」ことを学び、職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日朝の集いを開き「今日は何をして過ごしますか」「食べたいものはありますか」「どこか行きたい所はないですか」と皆さんに尋ね、各人が思いや希望を表す事を出来る場面を作る事で自己決定できるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の集いの中で「今日は何をして過ごしましょうか」と尋ねている。趣味やドライブ等は可能な限り希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服が着れるよう声かけを行っている。又、スカーフや帽子等の小物を使いおしゃれされたり、化粧やマニキュアをしておしゃれを楽しんでいる。男性に対しては、気軽に髭剃りが出来るよう手の届くところに鏡や電気カミソリを準備しておき、好きな時に髭剃りが出来るよう環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の集いの場で、その日の献立を紹介した後「食べたい物」を尋ね、材料があれば献立を変更し希望の食べ物を提供するよう努めている。食事の準備は女性を中心に参加され、野菜の皮むきやカット、味見、盛り付け等をされる。食後は食器洗いやおぼん拭き、テーブル拭き等を手伝われる。	朝の集いで食べたい物の希望を聴き、メニューに反映させている。下ごしらえや、配膳等個々の力に応じできることを手伝ってもらっている。職員も同じテーブルで同じ食事をおしゃべりしながら食べ、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜の栄養バランスを考えながら献立を考え提供する事を心掛けている。毎月体重測定を実施している他、毎食食事摂取量をチェックし、食事の摂取状況の把握に努めている。又、各人の体調に合わせ主食を粥に変更したり、刻み食にて提供したり、水分にトロミを付け提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の歯磨き・義歯洗浄の声かけ・見守り・介助を各人に合わせ行っている。義歯使用者の義歯については、夜間義歯洗浄液に浸している。その他、訪問歯科診療にて定期的に口腔ケアを行って頂いている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声かけにてトイレ誘導介助をしている他個々の行動・習慣に合わせて誘導介助している。夜間オムツを使用している方もおられるが、本人の訴えや活動に合わせ居室のトイレや共用トイレ(車椅子対応)に誘導し、トイレでの排泄や排泄自立に向けた支援に努めている。	昼間はトイレでの排泄支援をしている。入居後にトイレへ誘導することで、おむつを使用せずに済む事例もあり、個々の排泄パターンを確認しながら自立支援に努めている。各居室にはトイレが整備され、夜間もトイレを使用できる方は誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や歩行訓練等適度な運動を行うとともに、水分補給や野菜を多く取り入れた食事の提供、毎朝のヨーグルトの提供等にて便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日中に行い、曜日は決めていない。一日に3~4人の方がゆっくりと入浴していただけるよう努めている。希望があれば毎日でも入浴できる。体調によっては、入浴を中止し、足浴や清拭で支援する事もある。入浴には、職員の声かけが必要である。	利用者の希望に応じ入浴支援している。特に入浴日や回数も決められていないため、希望があれば毎日でも入浴できる。ゆっくりくつろいで入られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は、本人の状況に合わせて行っている。夜間不眠時には、無理に休んで頂くようなことはせず、ホールにて温かな飲み物を飲んで頂きながらゆっくり過ごして頂き、本人のタイミングで気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各人つづりにし、薬剤管理は職員が行っている。薬の変更があった場合は特に気を付け、服薬後の状態を観察し、変化のある場合には主治医に報告・相談している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自が出来る事(家事等)を手伝って頂き、趣味(カラオケ・習字・詩吟・塗り絵等)や特技を發揮し日々を楽しみながら過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として外出計画を立てたり、朝の集いで「行きたい所」の希望を聞いたり、新聞等で情報を得てドライブや故郷巡り、外食等を行っている。又、天気の良い時には外庭で朝の集いをしたり散歩を行っている。盆や彼岸の墓参り等もご家族・職員協力し本人の思いに沿った形で実施している。	季節により、散歩に出かけたり、近隣の花見をしたり、意向を聴きながら実施している。ふるさと巡りやお寺参り、美容院等個々の馴染みの場所に行き楽しみにつなげている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自預り金があり、必要に応じ代理購入したり、外出時に好きなものを買って頂いたりしている。個別で現金出納帳を作成しており、毎月ご家族に収支報告を行っている。又、別に小遣い銭を自己管理している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を3名の方が所有し、家族や知人と自由に交信している。その他の方は、施設電話にて支援している。贈り物のお礼には、直ぐに電話や手紙にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の悪臭防止の為に換気に気を付けている他、室温や湿度管理にも気を付けている。廊下の照明はセンサーにより自動点灯するようになっており安全確保に努めている。室内には季節の花を飾ったり、壁面に季節の飾りつけや、行事写真や入居者の作品を掲示するなどの工夫をしている。	広々と明るいいりビングで、利用者が集いゆったりと過ごされている。テーブルやソファも家庭的で、季節の花が飾られ、落ち着いた雰囲気である。俳句や書道の作品の掲示され、誇りを支援する場所でもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関側に3人掛けソファを1台、ホールに1人掛けソファを4台、廊下に籐の椅子を1脚設置している。気の合った者同士ソファに座り話をしたり、日向ぼっこをしたり思い思いに過ごす事の出来る場所となっている。又、一人で過ごしたいときには居室で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビ等本人の好みの物や使い慣れたものを持参され設置している。室内は、家族写真や行事写真で飾りつけされている。	入居時には、使い慣れた家具等の持ち込みをお願いしており、それぞれに持参されている。本人の作品や、家族の写真を飾り個性が感じられ、安心して過ごせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しスタンドを各部屋に設置している。出来る方には自分で洗濯物を干したり、洗濯物たたみをして頂き収納している。クローゼット内は、衣類を分かりやすく収納している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない